

# 古代・中世都市生活史データベースの構築

中村太一

Construction of the Urban Life in Ancient and Medieval Japan Database

はじめに

- ① 使用ソフトウェアとデータベースの性格
- ② 入力用DBの構築と入力ルール
- ③ 公開用データベースに向けて  
おわりに

## [緒論]

本稿は、共同研究「日本における都市生活史の研究」A班「古代・中世の都市をめぐる流通と消費」第二期において構築作業を行った「古代・中世都市生活史データベース（物価表）」、とくに入力用データベースの設計・仕様、および入力作業に関する報告である。

第一章「使用ソフトウェアとデータベースの性格」では、データベースの基本的な性格と、それに基づいて選定した入力用データベース作成用ソフトウェアについて述べた。

第二章「入力用DBの構築と入力ルール」は、入力用データベースにおける日付・物価・史料・備考の各パートごとに、各項目の設計段階の考え方や入力ルール、また、入力用フォームやデータ集約システムなどについて述べた。とくに、入力作業を簡略化し、最小限の入力項目から全ての項目にデータを割り振つていく手法について、で

きるだけ詳細に報告した。

第三章「公開用データベースに向けて」では、データベースの公開に向けて、入力作業のなかから浮かび上がってきた入力用データベースの問題点とその解決方法、および、公開用データベースで使用するデータや、検索・表示用画面の仕様などに関する問題提起を試みた。ここでは、WWWで公開する場合を想定して、検索ルールや表示画面の仕様、データのダウンロード機能などについて提案している。

なお、二〇〇三年七月現在、「古代・中世都市生活史データベース」に入力した物

価データの件数は、約三万四千件に達している。